

○テーマ設定の理由

対象年齢：5歳児クラス

4歳児クラスの時からままごとなどで役になりきって遊ぶ姿や、歌やダンスなど友達と一緒に楽しむ姿があった。また、体を使って様々なものになりきって表現することにも興味をもっている。色々な動きで表現する楽しさや面白さを経験する中で、興味、関心の広がりや表現する楽しさを深めていく



① 活動名【音楽&体を動かして表現する】

○活動のねらい

友達と一緒に表現遊びを楽しむ

○用意した環境

- ・CDデッキ ・CD
- ・素材の設定（カラービニール・テープ類・紙類・輪ゴム・マジックなど）
- ・ホールを使って遊ぶ
（保育室との行き来をしながら）
- ・ウレタン積み木



○子どもたちの様子

- ・空き箱などの素材を組み合わせ、思い思いに楽器を作って鳴らしてみている
- ・曲をかけて創作ダンス、盆踊りを楽しんでいる。右肩上り音頭からドラえもん音頭の曲になると（曲が変わった事を保育者がつぶやく）踊っていなかった子も関心を向けて踊りに参加し、踊りの輪が大きくなる
- ・女兒は継続しながらアイドルになりきり、踊る事や歌う事を楽しんでいるが、男児はあまり関心を向けない姿があった。盆踊りの曲が加わると、男児も踊りに参加するようになった
- ・ホールではウレタン積み木を太鼓に見立て、踊る友達に合わせてリズムをとっている姿があった

○活動内容

- ・音楽にあわせて、色々な表現を楽しむ
- ・遊びに必要なもの、作りたいものを色々な素材で作る
- ・作ったものを用いて表現することを楽しむ

○保育者の振り返りと気づき

- ・曲が変わると男児が盆踊りに参加するようになった姿から、普段から様々な曲を用意しておき、常に音楽を流しておいたり、子どもが好きな曲を選んで自分で流せるような環境設定をしたりすることで、表現を楽しむことに繋げていきたい
- ・ウレタン積み木を太鼓に見立て、表現する姿から、人前に出なくても自分なりの表現を楽しむ姿がある。一人一人の姿を見て、それぞれの楽しみ方が広がるようにしていく
- ・広い場や、人前が好きではない子もいる。保育室でも、素材や場を設定しながら、（子どもと考えながら）様々な表現ができる活動につなげていきたい

② 活動名【楽器に触れてみよう!】

○活動のねらい

様々な楽器に触れることを楽しむ

○用意した環境

【楽器遊び】

- ・キーボード・木琴・鉄琴・トライアングル・楽譜
- ・カスタネット・鈴・歌詞カード

【文字遊び】

- ・ホール（広い場所）
- ・人文字のあいうえお表



○活動内容

- ・様々な楽器に触れて、音を鳴らしてみる
- ・友達や保育者と一緒に好きな歌を聴いたり、弾いてみようとしたりする
- ・体を使って文字（ひらがな）を表す
- ・ドンじゃんけん

○保育者の振り返りと気づき

- ・普段から楽器を自由に使える環境がとても自然に設定されていて、音の鳴らし方もほどよい大きさだった。キーボードは音階シールが貼ってあり、楽譜にも歌詞と音階が書かれているので、子どもがすぐに弾けるようになっていた
- ・作った人文字をその場でタブレットを使用して撮影し子どもたちに見せることで、どのように見えているのかが分かり、「ここはこうしたらいいかも」と新たなアイデアが出るきっかけになっていた
- ・体を動かし人文字を作ることで自然と体の使い方の学びにもつながっている。また、自分の体をどう動かしたら作りたい文字になるかを、友達と一緒にやるなかで教え合い試行錯誤しながら楽しむ姿があった。継続的に遊んでいけると良い
- ・運動遊びとリズムをとることは、どのように体を使って表現するかという点で繋がっていると感じた

○子どもたちの様子

- ・様々な楽器を自由に使えるよう環境を設定すると、楽器の音の違いに気づき、いつも歌っている歌を歌いながら演奏を楽しむ姿があった
- ・一人が楽器（鉄琴）遊びを始めると自然と他の子どもその周りに集まり、各々が楽器を鳴らして合奏が始まっていた。鉄筋の鳴らし方も優しく心地よかったため、周りの子どもそれに合わせてそれぞれの楽器を優しく鳴らし、リズムを合わせるように意識して楽しんでいた
- ・ホールでの人文字遊びでは、最初は一人で表現できる文字を作り、段々と友達2人、3人と協力しながら難しい文字を作ることを楽しんでいた。自分たちで作った人文字を認めてもらおうと嬉しそうにしながら、より楽しむ姿があった



③ 活動名【みんなで合奏してみよう】

○活動のねらい

- ・楽器に触れ、音を鳴らすことを楽しむ
- ・楽器を使って表現することを楽しむ

○用意した環境

- ・大太鼓・小太鼓・タンバリン・鈴・シンバル
 - ・鍵盤ハーモニカ・トライアングル・鉄琴・木琴
 - ・ウッドブロック・歌詞カード・小テーブル
- 巧技台（20cm）×4・テーブル×2



○活動内容

- ・友達と一緒に楽器を鳴らして音を合わせてみる
- ・色々な楽器を使い、「ちいさなせかい」を演奏してみる

○保育者の振り返りと気づき

- ・音や楽器に触れられる環境設定が日常にあり、音楽を聞いたり、楽器に触れたりすることをくりかえし経験できたことが、音や楽器を楽しみ、表現する楽しさにつながっている。いつもできる環境や楽しめる援助があり、継続してきたことが今の子ども姿につながっている
- ・一人で音を出す、試してみる、友達と一緒にやってみる、友達の音を聞いて一緒に音をあわせてみる、等友達との関わりをもちながら楽しんで進めてきた。そこから、みんなで演奏することにつながり、各々が真剣に行っている姿、音色から心意気のようなものが伝わってきた
- ・のびのびと音楽を表現することを楽しんでいる様子が伝わり、日々の保育の積み重ねを感じた

○子どもたちの様子

- ・自分が楽器を演奏しない部分では、集中して友達の演奏を聞き、自分が演奏するタイミングを計っていた
- ・同じ楽器を演奏する子同士で音階やリズムを教え合ったり、複数の楽器を少人数で合わせて演奏してみたり、主体的に取り組んでいた。顔を見合って音を鳴らし始め、楽しそうな表情を浮かべていた

